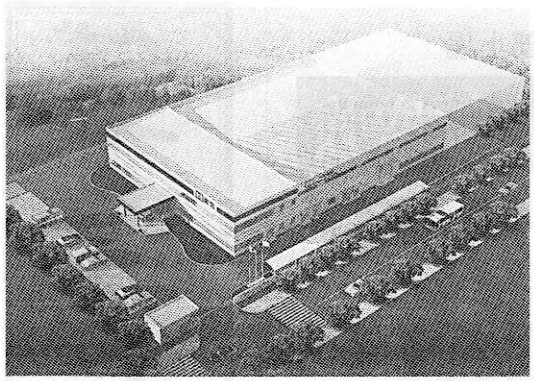
南武

中国に新工場を建設

3月着工、来春に稼動

生産能力を倍増



特殊油圧シリンダーの設計・製造販売を行なう南武（東京都大田区、野村伯英社長）は中国・江蘇省常州市武進区に新工場を設ける。3月初旬に着工し年末に完成、2015年春の稼働を目指す。同社の海外自社工場はタイに続いて2カ所目。

新工場は武進高新技術開発区で、敷地面積1万平方㍍に第1期工事として3500平方㍍の工場を建てる。総投資額は土地、建屋、設備を合わせ約4億円を見込む。同社は2010年に中国に進出、レンタル工場で生産してきたが、自社工場を建設し生産能力を現行の倍に引き上げる。

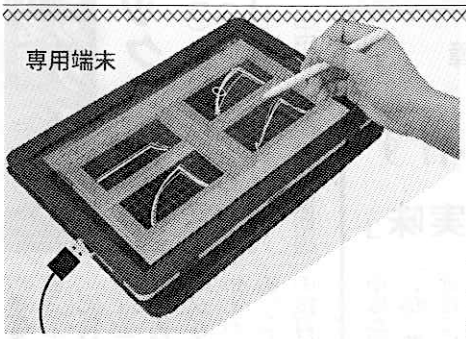
中国の現地同業メーカーのシリンダーは一般向けからダイカストに応用したものがほとんどで、油もれ等のトラブルが頻発している。南武のようにダイカスト専用に作り込んでいるシリンダーはなく、このため日系ユーザーは「南武指定」で調達しているのが現状だ。

ただ野村社長は「高品質・高価格を追求したブランド構築にこだわっていることは取引できるユーザーも限られ、自分達で市場を狭めているようなもの」とし、低価格化競争とは一線を画しながらも現地ニーズを取り込める仕様、価格のラインナップ化を強力に推進していく。

同社は昨秋から社内で「新興国プロジェクト」と銘打った事業計画を始動しており、現地法人に大幅に権限を委譲し現地ニーズを迅速に反映できる製品開発に舵を切っている。**（同プロジェクトについては次号の特集記事で紹介）**

鋳造条件を〝見える化〟

良品波形を検証できるデバイス



専用端末

南武（TEL03・3742・7377）は鋳造条件の見える化と分析が可能で、最適な条件出しができる「Cast Viewer（キャストビュワー）」の発売開始した。

センサから出力される波形を表示できるデバイスで、スクイズ動作の診断や金型の温度変化測定、シリンダ引き抜き力診断等ができる。良品波形を検証できるためスクイズ管理や生産性向上に役立つ。タブレット専用端末とADCユニット等で価格は約70万円。

海外日系工場から関心高く

キャストビュワーは見える化により、熟練技術者の技能や勘所を若手がスムーズに把握しやすいのが特徴。このため海外の日系ダイカスト工場から引き合いもあり、「品質安定化に悩むダイカスト工場の一助になれば」（吉富英明営業部長）と期待する。

同製品は波形の保存、呼び出し、複数波形の重ね合わせ、合否範囲設定による不良信号出力が可能となる。用途としてはセンサ付きシリンダーを利用し、ストローク波形をビュワーに表示し、スクイズ動作の見える化を実現。さらに波形の合否判定設定ができ、不良信号を出力できる。また良品波形との重ね表示により、不良原因の究明に有効なほか圧力センサを利用し、圧力波形でシリンダー出力を確認できるため、最適なシリンダー径の選定が容易だ。

2014年2月28日　ダイカスト新聞　第1345号